

# 川柳

## 【小学1年生・2年生】

特 選 ねがいごとかなうといいながればし

金城小学校1年 築地原アレックス

（評） ながれ星、いくつ見えましたが。うまくねがいごとがいえましたが。あつというまに星がみえなくなるので、どんなことをおねがいたのか、教えてください。思いがあふれる、たいへんきれいな句にできあがりました。

（彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子）

特 選 ほんをよみほんのせかいにはいりたい

金城小学校2年 東村 綸人

（評） 本が大きいとは、すばらしいですね。たくさんの本を読んだのでしょうか。だから「本のせかいにはいりたい」ということが出てきたんですね。すごいです。本を読んでいるから、川柳の思いつきもすばらしい。川柳もたくさん作ってください。

（彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子）

特 選 公園であきを見つけたうふふふ

城東小学校2年 西村 莉咲

（評） 「公園であきを見つけた」まではふつうの句で、だれでも思いつきます。「うふふふ」で秋のおもしろさを、ひとりじめして、楽しもうという気持ちが伝わってきます。ちよつとした思いつきですばらしい句ができました。

（彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子）

特 選 うんどうかいかぞくみんながきてくれた

城東小学校2年 北村 詩音

（評） うれしいですね。かぞくみんなでうんどう会を楽しむなんて、なかなかできないことです。ワイワイおうえんしたり、走ったり。思い出のおおいうんどう会になったことが目にうかびます。なんでもない句に思えますが、うれしさにあふれています。

（彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子）

特 選 休みじかんおちばのおとにはしやぎ声

城陽小学校2年 竹中 杏奈

(評) この句を読むと音が聞こえてきます。休み時間のさわがしき、そして落ちばを  
ふむ音や、学校のチャイムの音、給食のにおいまでしてくるようです。これか  
ら、いろいろなことをたくさん感じて川柳にとり入れてください。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 図書室に本がいっぱいどれにしよう

旭森小学校2年 嘉瀬井 香帆

(評) 図書室は楽しいですね。ものがたりの本を読んだのかな。それとも図かんかな。  
どのような本をえらんだのか気になります。句を読む人がそうぞうして、楽し  
める句です。ゆめがありますね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 オレのふくきょうはあお色めだっちゃう

旭森小学校2年 川嶋 煌大

(評) 目立つのがいやなのかな。青色のふく、きつとすきなんだよね。すきな色のふ  
くで目立つなんてすてきじゃない。とてもおもしろく楽しい句ができました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 あかとんぼきれいとんできれいな赤

稲枝東小学校2年 平田 惟人

(評) 青い空の下、赤とんぼがスイスイ飛んでいるふうけいですね。五・七・六に  
なっているのが気になります。でも、さいごの「赤」の漢字がよききいていま  
す。とんぼの赤い色がとてもきれいだっただけがよくなりました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 おべんとうぴーまんなしにしてほしい

金城小学校1年 野瀬 庸平

(評)「ぴーまん」がきらいなのかな。おかあさんが作ってくれるおべんとうが好きだから、作者の好きなものでいつぱいにしてほしいにしかつたのかな。川柳のおもしろさがいつぱいの句です。ピーマンもすきになって、ピーマンの句も書いてほしいです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 うれしいなみんなといるとほっとする

金城小学校2年 島川 東子

(評)「みんな」は友だちかな、かぞくかな。まわりに友だちがいると楽しいし、うれしいし、「ほっ」としますね。気持ちがよくわかります。五・七・五で毎日の生活がうまく表わせました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 みつつだよあさがおのはなきれいだな

城陽小学校1年 馬場 美遥

(評)はじめの「みつつだよ」がきました。読む人の心に残る出だしです。いちばん目についたことをさいしよに書くのはよい方法です。花がいちどに咲いて、きれいだることがよく伝わります。「みつつだよ」を使って新しい句をつくってみたら、きつといい句ができると思います。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 ドキドキだ電車のきつぷ一人買う

若葉小学校2年 草野 あおい

(評)すごい。きつぷを一人で買ったんですね。それは「ドキドキ」したでしょう。まちがわずに買ったのですね。その時のようすや作者の心の中まで見える句です。カタカナ、かん字をうまくとり入れて、読む人にもその場面がよく伝わる表現です。つぎは、どんなぼうけんが待っているのでしょうか。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

準特選 いいことがありそなよかんにじのはし

若葉小学校2年 吉田 隆成

(評)「よかん」と「にじ」にはなんのつながりもないようですが、きれいな「にじのはし」が見えたことで、「いいことがありそなよかん」がうかんだのですね。いい句ができました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ・島田 洋子)

佳作 ごみひろいびわこをキレイにしたいんだ

稲枝西小学校 匿名

佳作 ともだちがとおくにいてもともだちさ

稲枝東小学校1年 森田 眞那帆

佳作 くりの木がかぜにゆらされさらさらと

稲枝東小学校2年 松木 悠悟

佳作 あきがきたあきはひんやりあきおわり

稲枝東小学校2年 川嶋 優人

佳作 あきのじきもみじがひらりかぜにのる

稲枝東小学校2年 牧野 輝

佳作 くんくんとキンモクセイのかおりかぐ

金城小学校1年 三浦 明紗

佳作 きのこはねのこのこふえるおいしいね

金城小学校1年 山田 茉莉

佳作 べんとうでなしかききのこおいしいな

金城小学校1年 鷺見 茜

佳作 クラスがえだれとおなじになるだろう

金城小学校2年 西田 華望

佳作 うみがあるげーむができるはしれるぞ

金城小学校2年 富田 琉生

佳作 ふねにのりあそこの木までいってみよ

金城小学校2年 アハメドフィオナ

佳作 まえばぬけわらうとみんなわらってる

佐和山小学校2年 橋本 昌哉

佳 作 ギターさんぎりぎりぎり夢の音

佐和山小学校2年 深谷 礼

佳 作 くりひろいぼとぼとりおいしそう

城西小学校2年 高橋 明由実

佳 作 かん字はね書いておぼえる何回も

若葉小学校2年 伊丹 悠進



入 選 おかあさんかぶをうえたよがっこうで

稲枝東小学校1年 川 寄 聖奈

入 選 あきみつけなにかあるかなたのしみだ

稲枝東小学校2年 北川 芽依

入 選 くだものがぐんぐんそだつあきのかぜ

稲枝東小学校2年 平林 賢弥

入 選 オレンジとあかはあきにいいこんび

金城小学校1年 福田 陽真里

入 選 はろういんおばけこわいなたのしいな

金城小学校1年 小原 志騎

入 選 やきいもをもっていきますきりました

金城小学校1年 大矢 優政

入 選 がんばってうんどうかいでいちいとり

金城小学校1年 上坂 玲葵

入 選 やきいものゆげがもくもくあったかい

金城小学校1年 江畑 心絢

入 選 友だちがばいばいするよさびしいな

金城小学校2年 海外 恵輔

入 選 かきごおりとけちゃうよーどうしよう

城西小学校1年 安居 那菜

入 選 おかあさんかじ多すぎてすぐねちゃう

城西小学校2年 東 春樹

入 選 まいにちがたのしくなるよ家ぞくすき

城西小学校2年 北川 杏

入 選 おりがみでままとうさぎをおりました

城陽小学校1年 三嶋 結月

入 選 ともだちにやさしくしますだいじょうぶ

城陽小学校1年 高田 陽聖

入 選 べんきょうでひゃくてんとったうれしいな

城陽小学校1年 矢野 市穂

入 選 サッカーでキーパーやってとめられた

城陽小学校2年 鈴木 結翔

入 選 むずかしいかたかなかんじていねいに

鳥居本小学校1年 原 好芭

入 選 ぶつかったわぎとでなくてごめんねと

鳥居本小学校1年 北島 遥人

入 選 せんりゅうたのしいわたしおもしろい

城東小学校2年 若林 明花理

入 選 しゅくだいたくさんでてがいたくなる

金城小学校2年 朝西 郁仁

## 【小学3年生・4年生】

特 選 秋の日にこおろぎないていましたよ

城西小学校4年 辻 悠翔

（評）秋になってこおろぎがないているよ、だけのことでないように思えてきました。秋の夕がた、黒い虫、くさむらの中、チチチチという声のどれもが悲しくてさびしいです。「ないていましたよ」というのは、なみだを流していましたよということのように思えました。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

特 選 それからねオオカマキリはしんじやった

平田小学校3年 樋口 結心

（評）「それからね」をそうぞうするのが楽しい句です。何があつたのでしょうか。なんやかんやの物語があつたその後で、死んでしまったのか。または、友だちとのおしゃべりの終わりにふとつぶやいたのか。「ああ、それからね…」って。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

準特選 たのしみなこうじんやまにのぼります

城北小学校4年 藤田 星莉

（評）さあいよいよその時が来たといううれしき、喜びにあふれている一句です。うきうきした気持ちがじゅうぶんに伝わってきます。きっと、美しい琵琶湖や田んぼの緑、彦根の町が見えたことでしょう。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

準特選 はよ帰ろおふろはいいぞあつたかい

若葉小学校3年 岡本 幸大

（評）おお、これが小学三年生の本心だったかと、うれしくなってきました。スポーツクラブで汗をかけたのか、ただ秋の風が寒い日のことかわからないけれど、すなおで、元気いっぱいのだんの生活がほほえましく感じられ、いい句です。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

準特選 おとうさんくりのおやつがおいしいね

城西小学校4年 村田 謙昌

（評）おとうさんと呼びかけられて、おとうさんは栗のおかしをのどにつめそうになるのです。つらそうな顔を見せてしまったのか。でも、この子はいいい子だと、あまいおやつを食べながら父は泣けてくるのです。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

佳 作 さむい朝肉まんみたい なほかほかふとん

城東小学校3年 片瀬 実優

佳 作 にいちゃんとかんかをするよまいにちね

稲枝東小学校3年 原川 華利那

佳 作 どんぐりがころころとおちてくる

平田小学校3年 橋本 知佳

佳 作 つきみしたはんげつなのにもりあがる

平田小学校4年 北川 結優人

佳 作 ふうせんが富士山こえてどこまでも

佐和山小学校4年 高村 蒼大

佳 作 楽しみは今さがしてるさいちゅうです

城西小学校4年 小林 海斗

入 選 きもちよいやさしいかぜがふきつづく

佐和山小学校4年 杉本 美咲

入 選 つゆの日にどしゃぶりの雨がやんでいた

城西小学校4年 清水 琉太

入 選 楽しみに学校行くと忘れもの

城西小学校4年 毛利 友哉

入 選 バトンパス「ゴー」のかけ声ひびく空

高宮小学校4年 堀田 悠介

入 選 バトンパス本気を出して夢つなぐ

平田小学校4年 田辺 光基

入 選 ほんきでやるだんたいえんぎみてもらう

城西小学校4年 北川 瑚蘭



入 選 兄にかつそんなことはうんどうだ

稲枝東小学校3年 市川 伶人

入 選 せいげんがなくなってもマスクつけ

城北小学校4年 森谷 颯天

入 選 おさしみだ今日はごうかだうれしいな

平田小学校4年 堀 椿希

入 選 ぞうきんはいっぱいよごれてありがとう

平田小学校3年 馬場 優海



## 【小学5年生・6年生】

## 特 選 母さんと話しぶつかるガラスの戸

城東小学校6年 秋山 佳苗

（評）ガラス戸越しにお母さんと話している光景です。いろいろな状況が浮かびます。ガラスの戸がいろいろな役目を果たしている、着想もとても良くリズムもよい作品です。このような見つけで、もっと川柳を楽しんでほしいです。

（彦根文芸協会 浅野 忍）

## 特 選 算数であたまかかえるあははは

城東小学校6年 田邊 絢音

（評）おもしろい。これぞ川柳という作品です。状況が私にも浮かびます。川柳に行き詰まると本当に頭をかかえたくりますね。最後の「あはははは」。お手上げの様子か、少し分からないのか、いろんな状況を、「あはははは」で表現しました。

（彦根文芸協会 浅野 忍）

## 特 選 えがおはねマスクをしてもつたわるよ

城陽小学校6年 疋田 桃花

（評）コロナ禍でみんな暗い気持ちになっていますが、こんな時みんなが少しでも笑顔になって乗り切ること。マスクをしても笑顔は伝わり、雰囲気や和らぎます。作者の思いが素直に五・七・五に込められています。

（彦根文芸協会 浅野 忍）

## 準特選 コロナはねひとのじゅうをうばうんだ

城陽小学校6年 北川 佳都

（評）うまく表現しています。この二年間私たちの生活、学校生活も制限されています。五・七・五のリズムで、思うことがうまく表現されています。早く元の生活、マスク不用の生活がしたいですね。この調子で川柳をもっと楽しんでください。

（彦根文芸協会 浅野 忍）

## 準特選 本にはね作者のおもいつまってる

城北小学校5年 西村 柚那

（評）本といっても、マンガ、小説、詩集などいろいろあります。本の作者は自分の心を文字・文章に表わして読者に伝えていきます。作者の心が読み取れると作品に引き込まれ、いい本は何回も読み返したりします。思ったことを素直にリズムよく表現しています。

（彦根文芸協会 浅野 忍）

## 準特選 マスクとるみんなの笑顔美しい

城陽小学校6年 朝日 乃々華

（評）マスクしていると誰かわからない時がありますね。今はみんなマスクをしています。マスクを取ると笑顔がよけい美しく見えますね。素直な表現で、リズムよく出来た句です。もっと川柳を楽しんでください。

（彦根文芸協会 浅野 忍）

準特選 プロの夢一所懸命追いかける

城陽小学校6年 北川 圭介

(評) すばらしい句です。夢をもつことはいいことですね。私も同年代にプロ野球への夢をもち、一応高校球児です。努力すれば報<sup>むか</sup>われることを信じましょう。どんな競技に夢をもっていますか？滋賀から有名選手が多く出ています。あなたも夢に向かって頑張ってください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 いのちはねうばうとけしてもどらない

城北小学校6年 辻 佳奈恵

(評) いのちの大切さはみんな共通の思いです。五・七・五にリズムよくまとめて表現しています。同じ「いのち」のことを表現している句がありますが、人のいのちを奪うことは決して許されなく、人間としてあつてはならないことです。そういった事件がテレビなどで流れると悲しくなります。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

佳作 元氣よく地域の人にあいさつだ

稲枝西小学校6年 福沢 かな

佳作 お母さん毎日家事をありがとう

稲枝東小学校6年 横川 芽衣

佳作 オリンピックかぞくみんなであつくなる

稲枝東小学校6年 平木 沙歩

佳作 ピカピカだがんばりやったおおそうじ

城陽小学校6年 松宮 聖太

佳作 ありがとうすなおな気持ちあたたかい

城陽小学校6年 藤林 希空

佳作 はやくこいマスクを取れる生活を

若葉小学校5年 川西 こはる

佳作 通学路いつもの声が聞こえてる

稲枝西小学校6年 小嶋 凜

佳作 人々で世界平和をなしとげる

稲枝東小学校6年 堀尾 俊介



入選 コスモスがじゅうたんみたいいきもち

稲枝東小学校6年 山田 悠月

入選 あざやかな七色の橋目に映る

稲枝東小学校6年 生子 咲

入選 食べものは感謝をもっていたらこう

稲枝東小学校6年 清水 結衣羽

入選 あんしんだかぞくがいるとポカポカだ

城陽小学校6年 澤田 健人

入選 オリンピックテレビの前でなみだぽろっ

平田小学校5年 日夏 柚宇

入選 ごはんはねよくかむことでおいしいよ

平田小学校5年 中村 一心

入 選 一位取ろうバトンつなぐよねがいこめ

平田小学校5年 若杉 有沙

入 選 マスクでも消えない笑顔のすばらしさ

平田小学校6年 井上 日和

入 選 こんにちはその一言があたたかい

平田小学校6年 有本 楓

入 選 家帰りお菓子が無いよおい兄貴

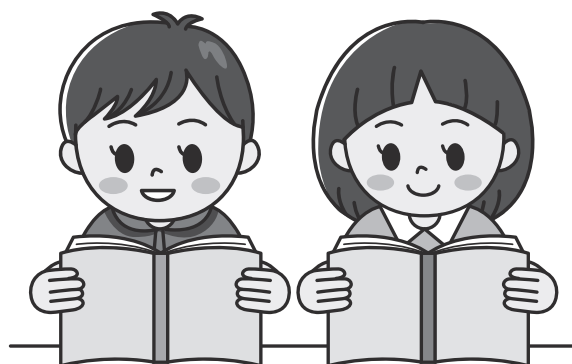
城東小学校6年 小椋 衣織

入 選 いやなこと始めてしまえばかんたんだ

城北小学校5年 北村 佑樹

入 選 ひるやすみほんひらけたらねむくなる

城陽小学校6年 木村 柚那



## 【中学生】

## 特 選 定位置だ試合でぼくは座ってる

南中学校1年 米倉 昌志

(評) 試合に出場できなくてベンチにすることを表現した句です。日頃思っていることを上五の「定位置」という言葉で表現したことが良かった。感じたことを言葉にできるのはすばらしく、ベンチにいても応援の声かけでチームの助けになるでしょう。この感性を大事にしてください。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

## 特 選 さんこう書キズがないまま妹へ

西中学校2年 大谷 将武

(評) 中七(五七五の七のこと)の「キズがないまま」は、参考書をていねいに扱ったからなのか、あまり使わなかったからなのかはわかりません。見たけれど役に立たなかったのかなどと、いろんなことが想像できます。カタカナで表現した「キズ」の言葉が新鮮でした。

「参考書」と表現した方がよい。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

## 準特選 朝起きてれいぞうこかな家の中

南中学校1年 堀内 結愛

(評) 冬の朝、戸外だけでなく室内も寒いことを、あたかも「冷蔵庫のようだ」と表現しています。さらに腹が減って飲み物や食べ物のことも想像したのかもしれない。知っている漢字を使うと読み手に伝わりやすくなります。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

## 準特選 旅行けず夢の中だが長旅に

南中学校1年 江畑 樹

(評) コロナ禍で学校行事の修学旅行が中止、あるいは日帰り旅行になつてがっかりしている情景が浮かびます。学びの機会を何とかできなかった社会への叫びの句です。やりきれない気持ちになりました。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

佳作 平凡な毎日なほど平和です

西中学校2年 松井 優大

佳作 ぼんやりとしてたらとうに受験生

西中学校3年 堀江 優那

佳作 帰り道友との別れまた明日

南中学校1年 物部 紗佳

佳作 あと少しみんなと過ごすこの時間

南中学校1年 島村 日和

佳作 忘れない月見て帰る下校道

南中学校1年 東澤 莉乃

佳作 そのえがおマスクしてても変わらない

南中学校1年 吉岡 玲

入選 マスクなし笑顔の華を咲かせたい

西中学校3年 山岡 葵

入選 大空を見あげて思う海のように

南中学校 匿 名

入選 秋の山色とりどりの着物のよう

南中学校1年 川崎 彩那

入選 一日の終わりに一人反省会

南中学校1年 洞田 望宙

入選 休日の家族団らんホッとする

南中学校1年 清水 万智

入選 そでのトコボタンとまらず四苦八苦

南中学校1年 中清水 初奈

入 選 北風につられて秋がさらわれる

南中学校1年 松村 優月

入 選 寒い夜にふと見上げれば一番星

南中学校1年 岩田 早紀

入 選 思いやりみんなのすてきな宝物

西中学校1年 中山 新太

入 選 ぬけがらや私の休暇はまだ明けず

西中学校3年 位田 智音

## 【総評】

今年もコロナ禍で振り回されそうです。

学校や遊びに行くときのマスクには、すっかりなれましたね。今年こそ「夏休み文芸ワークシヨップ」があるといいですね。

川柳の応募の人数は毎年増えています。とてもうれしいことです。全員楽しく魅力あふれる作品ばかりなので、入賞者をきめることがとても難しいです。ひらがな、カタカナ、漢字をつかって、自分の気持ちをうまく表現できた句を基準に選びました。

目で見た季節の移り変わりの中に自分の気持ちを入れることが難しいです。難しいですね。

もみじが散ると秋の空がさびしがる…

運動会で負けると次は強くなる…

雪だるまはとけてくるとかわいそう…

など句の作り方はいろいろあります。右の文のように思ったことを書いてみてから、五音七音五音になおす方法もありますから、そのような方法で川柳を作ってみるのも良いかもしれません。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)